

平成25年度授業づくり拠点校（活用力研究事業）実践事例

指導者 中村 晃司

1. はじめに

先日、学校保健委員会のリハーサルで発表者に対して生徒のこんな発言があった。「発表者は聞き手を意識して聞いて、人の様子を見ながら発表する方がいいと思います。」「発表用にまとめた大判用紙の色が見づらいので色を変えた方がいいと思います。」この言葉は国語科において、人前で発表する時の大切なこととして、常に話していたことである。この発言を聞いたとき、はっと思った。国語科で学習していることが、教科以外の場所で活用されているとともに、この発言をした生徒にとっては当たり前のこととして身につけていることである。

2. 国語科の取組

(1) 授業をとおして育む生徒の力

生徒が、国語科の授業で学んだことを、実際の生活の中で活用することができるようにする力をいかにつけていくかということを中心としている。そのため、50分間の授業時間で、どのような力をつけるかを明確にし授業に臨んでいる。

また、指導者が一方的に授業を進めていくのではなく、授業中の生徒の思考の展開によりそい、生徒の主体的な学習への取組を支援し、自ら学んでいく力を育むための授業のあり方を常に意識している。

(2) 班での学習活動を中心とした取組

従来の指導者対生徒一人の対一的な授業の展開では、生徒は能力等により自己否定を行い、授業に身が入らず授業中学ぶことをやめてしまう生徒の姿がみられた。そこで、自分を肯定的にとらえ、学ぶことからの逃避を回避するために、学習班をつくり、生徒同士がお互いに関わり合い学び合うことで「学び」に対する意欲を向上させるようにした。班の人数は、三人または四人で一グループとした。五人または六人のグループでは班のメンバーに対する依存度が高くなり学習に対する意欲が停滞する恐れがあるためである。そして、授業時間ごとに、班での司会役をローテーションで担当するようにしている。生徒は四月の最初の授業で基本的な話し合いにおける司会の仕方を学習しているので、誰もが話し合いの進行ができるようになっている。



(3) 学習環境の整理

机上には国語辞典を常備しており、生徒は授業中意味のわからない語句に出会うと、自ら辞書に手をのぼし意味を調べている。なお、生徒の心理として国語辞典は辞書のケースを取り除いている方が自ら調べる率が高くなるようである。

また、調べ学習を行うときは、同一の資料を使うのではなく、複数の資料を活用して調べることができるようにしている。

3. 授業において

(1) 本時の課題の明確化

今日の授業で何を学ぶのか、課題を黒板に提示するなどして、課題を明確にし生徒に意識づけをさせている。

(2) 授業の基本的なスタイル

授業の基本的な流れは以下の通りである。

- ①基礎・基本の定着のための漢字の学習
- ②本時の学習課題の提示
- ③自分の考えを整理
- ④班での話し合い活動
- ⑤班で話し合ったことを報告
- ⑥学級での課題の深化
- ⑦本日の学習の振り返り

(3) 漢字の学習について

まず、生徒を黒板に注目させ、漢字を六つ板書する。これは、生徒に筆順を確認させる目的もある。この時、漢字の意味や部首など、漢字に関する解説をしながら板書をするので生徒に漢字の印象を強めるようにしている。そして、「一分間漢字」で漢字を覚えるように指示する。生徒は、ノートに漢字を書いたり、空に指で漢字を書いたりして漢字を覚える。一分後、ノートに改めて漢字を書く指示をする。ほとんどの生徒がこの一分間で覚えることができ、漢字を覚えることに抵抗なく取り組んでいる。

(4) 自分の考えで大切なこと

常に生徒に意識させていることは、「なぜ、自分はそのように考えるのか。」「なぜ、そのようにとらえるのか。」文章に書かれていることを根拠として、自分のとらえ方や考えを述べることである。ただ、感覚や感情でとらえて述べるのでは聞き手を説得させることはできない。自分の考えに明確な根拠をもたせ論理的に述べることで、聞き手を納得させることができることを身につけるためである。

(5) 話し合い活動の中での教師の役割

話し合いにおいては、課題によりどうしても自分の考えを明確に述べるのが難しい生徒もいる。そんな時、生徒の考えを推し量って、指導者が補足や助言をすることで、生徒も自分の考えを整理し自分の述べたかったことを言語化することができるようになる。

4. 公開授業の指導案

第3学年 国語科学習指導案

1 教材名 魯迅「故郷」

2 単元設定の意図

(1) 生徒観

生徒は、文学の長編作品として、一年生では芥川龍之介の「トロッコ」、二年生では太宰治の「走れメロス」を学習してきた。一年時の「トロッコ」では、「次の課題から、班で一つ選択し、まとめたことをクラスで報告しよう。」という六つの課題の中から班で一つを選択し、その解決までを述べる発表会を中心に授業を行った。二年時の「走れメロス」では「次の課題①～⑫から一つ選び、図や表を使って整理し、自分の考えたことを報告しよう。」を中心課題として、生徒一人ひとりに二十個の課題の中から自分の興味ある課題を選択させ、自分がまとめたことの発表を行った。

このように、課題解決にむけて生徒が主体的に、班の話し合いを中心に取り組む学習活動を行ってきた。そして今、生徒は素直に課題を受け止め、お互いに協力し課題解決に取り組むことができる。また、話し合いの様子を窺っていると、なぜ、自分がその様に思うのか、あるいは考えるのか、作品の中に書かれている言葉から根拠を明確にして、発言するようになってきている。

(2) 教材観

本教材「故郷」は、中国の作家である魯迅の小説である。昭和28年に中学校国語教科書で初めて掲載され、以後各出版社に掲載されるようになり、教科書教材として確かな地位を確立している。一方で、昔の中国の話であることから、時代的な背景や、中国特有の語句により、生徒には理解しにくい作品である。

しかし、どうすることもできない行き詰まった状況の中で「わたし」の中に「希望」という考えが浮かぶ。この作品の最後の場面から「わたし」の「希望」とは何かということを考えることで、「わたし」の考えを理解し、「わたし」という人物像を考察することで、社会状況と人間とのかかわりについて、生徒が考えることに、適した教材であると考えられる。

(3) 指導観

この教材を扱った過去の授業後の感想には「一体何を言いたいのかわからない」という「わからなさ」や「納得がいかないもの」が多かった。大変理解しにくく書かれている文章を読み解いて作品を読み取るのではなく、自分の思い込みで作品を消化しようとしたからではないだろうか。特に、作品の最終部「まどろみかけたわたしの目に、海辺の広い緑の砂地が浮かんでくる。その上の紺碧の空には、金色の丸い月がかかっている。それは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」の部分で「多くの人が希望をもてば、希望は実現する。」という解釈をおこない、作品の本質をゆがめたとらえ方をしてしまう。

指導に当たっては、表現を吟味していくことで、主人公である「わたし」という人物がどのような考えをもち、どういう人物であるかをとらえさせたい。そして、「わたし」という人物の考えや、行動についてどのように思うか、生徒自身に主人公を評価させることで、作者である魯迅の世界観をとらえ作品の読みを深めさせたい。

3 指導目標

状況や時代背景を考えながら読み、人間と社会とのかかわり合いをふまえ、主人公の考えに対する自分の意見をもち、作品の読みを深める。

4 評価規準

- (1) 作品の内容や表現を根拠にして、作品中で描かれている人間と社会の姿を読み取り、自分の考えをもっている。 【関心・意欲・態度】
- (2) 情景描写や人物描写に着目して読み、作者の意図について考えている。 【読む能力】
- (3) 登場人物の生き方や、「わたし」のものの見方とおして厳しい社会状況の中で生きる姿をとらえている。 【読む能力】
- (4) 「わたし」の生き方について、自分なりに評価している。 【書く能力】

5 指導の計画

第一次 本文を通読し、登場人物や場面ごとの内容をおさえ、作品の概要をとらえる。…………… 2時間

第二次 初発の感想から疑問点を整理し、疑問点を解決していく活働を通して、情景描写や人物描写に着目させ、作品内容を理解し読みを深める。…………… 2時間

第三次 「わたし」の考え方に対する自分の考えを整理し、「わたし」に対する評価を行う。…………… 2時間（1／2本時）

6 本時案

(1) 主眼

「わたし」の考える「希望」から、「わたし」の考え方に対する自分の考えを整理し、「わたし」の考えをとらえる。

(2) 展開

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点
導入	1. 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 「わたし」の考える『希望』をもとに、「わたし」の考えを分析しよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を確認できるように学習プリントを配布する。
展開	2. 「わたし」のいう『希望』とはどのようなものかを、自分の考えをまとめる。 3. 班で、意見を交換する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自で考えたことを、班の仲間に説明する。 ・ 司会者を中心に、作品に対する各自の考えを意見交換する。 ・ 意見交換後、さらに、班で作品の情景や心情を考える。 4. 各班で話し合ったことを学級全体に報告し、考えを共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部分的な読みから捉えさせるのではなく、作品全体の「わたし」の考えから捉えるよう助言する。 ・ 作品の中の語句や表現を根拠に考えるよう助言する。 ・ 生徒の発言を位置づけ、つなげることで読みを深化する。 ・ 以下の視点を押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> ①「もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」の「道」を「希望」に置き換えて考える。 ②「ヤンおばさん」を「わたし」はどのように捉えているか確認する。 ③現在の「ルントウ」を「わたし」はどのように捉えているか確認する。
まとめ	5. 本時のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を終えての感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習プリントに三行程度の感想を書くよう指示する。

7 評価

「わたし」の考えを分析することで、「わたし」の考えを捉えることができたか。

5. 授業後の生徒の感想

- ・文章中の比喩を使った表現から、作者の伝えたいことが見えてきて面白かったです。同じ言葉は同じ意味を表し、論理的であったと思います。
- ・私の希望についての考えが自分なりにわかったので良かったです。
- ・僕はこの学習を終えて、時の流れというのは、悲しい格差や現実をつくりだしてしまうのかなと思いました。だから、今の希望を大切にしていきたいです。
- ・「私」の考える「希望」について詳しいところまで知ることができました。「希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない」という文は、私の中で最も印象に残っています。その他、「私」と関わりのある他の登場人物に対する「私」の心情も、その人その人によって様々で、また昔と今でも異なることが多いなと思いました。
- ・作者の「希望とは」ということを聞いて、希望とは自分でつくっていけばそれが希望になるということがよくわかりました。
- ・「私」の心情や思いがわかって、「私」はルントウやヤンおばさんに対して物にたとえているので、あまり良い人ではないように思いました。
- ・私は、故郷の話がなんとなくしか分かっていなかったので詳しく分かってよかったです。
- ・「私」が希望について考えるところはとても大事な場面だと思います。とても難しかったです。
- ・「私」が考える「希望」について、様々な班の意見を聞いて、いろいろな考え方があり、おもしろかったです。
- ・課題が難しく戸惑いましたが、他の人や班の意見を聞いて納得したり、自分の意見を考え直したりすることができました。
- ・今回の課題はとても難しかったです。でも自分なりに最後まで考えたので良かったです。
- ・今回の課題はとても難しかったです。でも、自分の班の人の意見や他の班の人の意見を聞いて納得できるところがたくさんありました。

6. 今後の課題

今回の公開授業では、難解な文章を生徒自身で読み解かせるために発問を行ったが、生徒の思考を混乱させてしまう状況となってしまった。今後、生徒の現状を十分把握し、発問の内容を検討することが必要である。